参考資料２

日本学術会議成立時総会（令和８年 10 月１日）における加藤会長の所信演説

第 27 期は、日本学術会議が法人として歩み始める最初の３年間です。大きく変化する世界情勢の中で、将来を見据えた組織運営と活動の基盤をつくっていくことが重要です。学術の独立性と自律性を守り、日本を代表するナショナルアカデミーとして社会から信頼され、必要とされる組織をつくることが必要です。

そのために、私は、対話、熟議、協働、そして他者から謙虚に学ぶ姿勢を基本に据えたいと考えています。私は、基礎生物学から生命倫理、公共政策へと研究を広げ、研究組織の運営や患者市民参画に取り組んできました。ＷＨＯや国際学会では、科学技術のルールづくりにも携わりました。これらの経験を抱負に書きました四つの取組に生かします。

第一に、社会に出て人々と共に課題を見いだします。学協会、市民社会、地方自治体、政府、産業界の声を聞き、異なる知識や経験を持ち寄ります。見解や提言の発出後も対話と協働を続けます。

第二に、三部の違いを尊重し、違いを力に変えます。生命科学、ＡＩ、環境、人口、災害、安全保障などの課題には、科学的知見だけではなく、歴史を踏まえた倫理的・社会的な観点からの検討が欠かせません。分野を超えて取り組めるのが日本学術会議の強みです。

第三に、若手研究者の育成と研究支援体制の強化に取り組みます。日本学術会議の活動を社会への貢献とともに、一人一人の研究者の研究環境の向上にもつなげます。若手アカデミーや学協会などと協働し、実効性のある提案を行います。

第四に、世界のアカデミーとの連携を深めます。地球規模の課題や科学技術をめぐる国際的な議論、ルール形成に参画します。

こうした活動には支える組織の力が必要です。調査、社会との対話、情報発信に専門の人材を配置し、災害やパンデミック、ＡＩなど、暮らしに関わる課題にも迅速に応えられる体制を整えます。また、性別、分野、世代、地域など、多様な人々が意思決定に参画できる組織にします。

法人化を社会に開かれた新しい日本学術会議をつくる機会にしたいと思います。これまでの私の経験を生かし、執行部、会員の皆さんとチームで取り組みます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本学術会議会長



かとう　　かずと
加藤　　和人

現　　職　　大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点
（WPI-PRIMe）特任教授（常勤）／名誉教授
日本学術会議会長

研　究　内　容　　医学研究の倫理的課題に関する研究、ヒトゲノム析や幹細胞研究、AI の医療実装などの先端生命・医科学分野の倫理的・社会的課題およびガバナンスに関する研究、医学研究への患者・市民参画（PPI）のあり方に関する研究（実践的活動を含む）

学　　歴
１９８９年　京都大学大学院理学研究科博士課程生物物理学専攻修了
同　　年　理学博士（京都大学）

職　　歴
１９８９年　京都大学大学院理学研究科博士課程生物物理学専攻修了・理学博士
１９９０年　Research Associate, University of Cambridge（Sir John Gurdon 教授研究室）
１９９３年　JT 生命誌研究館　研究員（1998 年～主任研究員）
２００１年　京都大学人文科学研究所　助教授
（2007～2012 年 准教授）（2001～2012 年の本務）
２００４年　京都大学大学院生命科学研究科・生命文化学分野
助教授（併任）（2006 年 4 月～兼任、
2007～2012 年 兼任准教授）

２００８年　京都大学物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）
連携准教授（～2012 年 3 月）
２０１２年　大阪大学大学院医学系研究科・医の倫理と公共政策学分野
・教授（～2026 年）
２０１２年　京都大学物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）
特任教授（～2017 年 3 月）
２０１２年　京都大学人文科学研究所・客員教授（～2013 年 3 月）
２０１９年　University of Oxford,
Centre for Health, Law and Emerging technologies [HeLEX], Academic Affiliate （～現在）
２０１９年　大阪大学・総長補佐（～2026 年 3 月）
２０２６年　大阪大学名誉教授
２０２６年　大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点
（WPI-PRIMe）特任教授（常勤）（～現在）
２０２６年　日本学術会議会長

所　属　学　会
・日本生命倫理学会
・日本人類遺伝学会
・日本遺伝子細胞治療学会
・日本再生医療学会（2025 年４月～理事）
・科学技術社会論学会
・American Society of Human Genetics
・International Association of Bioethics
・International Society for Stem Cell Research
(2026 年 7 月～Member of the Board of Directors)

日本学術会議副会長



みょうわ　まさこ
明和　政子

現　　職　京都大学大学院教育学研究科教授、広島大学客員教授
日本学術会議副会長

担当職務　【主担当】
・科学者間の連携に関すること
・学術会議と政府、社会及び国民等との関係に関すること
【副担当】
・学術会議の国際活動に関すること

専門分野　認知脳科学、実験心理学、霊長類学

研究内容　「ヒトらしさ」の起源を探り、新たな研究領域を世界に先駆けて開拓

「ヒトらしさ」は、いつ、どのように生まれるのか？

この根源的な問いに、ヒトとヒト以外の霊長類を胎児期から比較するという独自のアプローチで挑み、ヒトに特有の脳・認知機能の起源と発達を探る「比較認知発達科学」という新たな研究領域を世界に先駆けて切り拓いてきました。

さらに、養育者とのかかわりや早期産児の発達研究を通して、脳や認知・行動の発達が、身体と環境との相互作用によって多様な軌跡をたどることを明らかにしてきました。近年は、腸内細菌叢、内分泌系、自律神経系、脳、行動をひとつのシステムとしてとらえ、「ヒトらしさ」と「一人ひとりの多様性」が生まれる仕組みの解明へと研究を発展させています。

こうした独自の研究を核に、脳神経科学、臨床医学、情報工学、ロボティクスなどを結び、国際共同研究を牽引。さらに、食品・ヘルスケアなど多様な企業との産学共創を積極的に進め、基礎研究の成果を特許、商品、腸内細菌叢検査サービスなどの社会実装へとつなげてきました。既存の分野を横断するだけでなく、新たな研究領域そのものを創出し、そこで生まれた知をAI・ロボティクス、さらには新たな事業や社会的価値へと展開する研究を推進しています。

学　　歴

１９９３年　京都大学大学院教育学研究科　博士後期課程修了
同　　年　博士（京都大学）

職　　歴

１９９７年　日本学術振興会特別研究員（DC・PD）

２００２年　京都大学霊長類研究所研修員

２００３年　滋賀県立大学人間文化学部　専任講師

２００８年　京都大学大学院教育学研究科 教育方法学講座　准教授

２０１４年　京都大学大学院教育学研究科教育方法学講座　教授

所　属　学　会　　・日本神経科学学会

・日本心理学会

・日本発達神経科学学会

・Member of the International Congress for Infant Studies

・Member of the Society for Neuroscience

日本学術会議副会長



ほり　まさとし
堀　正敏

現　　職　　東京大学　大学院農学生命科学研究科
獣医薬理学研究室・教授
日本学術会議副会長

担 当 職 務　　【主担当】
・学術会議の財務等の組織運営に関すること
・学術会議が行う意思の表出に関すること
【副担当】
・学術会議と政府、社会及び国民等との関係に関すること

専 門 分 野　　獣医学　動物生命科学　薬理学

研 究 内 容
・消化管における免疫－運動連関の解明
消化管は脳とは独立して消化管筋層間神経叢によって様々な分泌制御や消化管運動制御を担っていますが、その分子機構と免疫・炎症応答との連関機構は、いまだ十分解っていません。
・間葉系幹細胞による臓器線維症の分子メカニズムの解明
内臓臓器は「線維化」という組織修復により老化を防いでいます。この臓器の線維化を司っている間葉系幹細胞が全身の臓器に分布しています。
・天然有機化合物の生理活性作用の解明
海産毒、食品成分、漢方薬成分など天然有機化合物の生理活性作用の探索を長年行い、多くの研究試薬や創薬シーズを発見してきました。」

学　　歴
１９８６年　日本獣医畜産大学　獣医学部　修士課程修了
１９９４年　博士（獣医学）（論文博士）（東京大学）

職　　歴
１９８９年　東京大学　農学部　助手
１９９２年　アメリカ合衆国ネバダ州立大学医学部　PD
１９９２年　東京大学　農学部　助手
１９９４年　アメリカ合衆国テキサス州立大学医学部　サウスウエスタンメディカルセンターPD
１９９６年　東京大学　大学院農学生命科学研究科　助手
２００４年　東京大学　大学院農学生命科学研究科　助教授
２００７年　東京大学　大学院農学生命科学研究科　准教授
２０１８年　東京大学　大学院農学生命科学研究科　教授

所　属　学　会　　・日本獣医学会（理事）
・日本薬理学会（理事）
・日本神経消化器病学会（理事）
・日本平滑筋学会（理事）
・日本毒性学会

日本学術会議副会長



せきたに　つよし
関谷　毅

現　　職　　大阪大学産業科学研究所　先進電子デバイス研究分野教授
大阪大学栄誉教授・総長補佐
日本学術会議副会長

担当職務　　【主担当】
・学術会議の国際活動に関すること
【副担当】
・学術会議の財務等の組織運営に関すること
・科学者間の連携に関すること
・学術会議が行う意思の表出に関すること

専門分野　　総合工学、電気電子工学

研究内容　　・物性物理、ナノサイエンス・ナノテクノロジーを基盤に、有機分子・ナノ材料の電子状態、電気伝導の仕組み、材料界面の物性を解明・制御する研究
・材料の物性とデバイス構造の関係を探究し、電気的機能と柔軟性・伸縮性を両立する電子デバイスの原理と設計に関する研究。
・材料・素子・集積回路・システムを一貫して扱い、超薄膜・伸縮性エレクトロニクスの学術的・技術的基盤を開拓し、生体と電子系をつなぐバイオエレクトロニクスや新たな計測技術へ展開する研究。

学　　歴
１９９９年　大阪大学基礎工学部物性物理工学科　卒業
２００３年　東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻　博士課程修了＊短縮修了
同　　年　博士（工学）（東京大学）

職　　歴
２００３年　東京大学大学院　工学系研究科量子相エレクトロニクス研究センター・物理工学専攻　助手
２００７年　同　助教　（助手の名称変更による）
２００９年　東京大学大学院　工学系研究科電気系工学専攻　助教
２０１０年　同　講師
２０１１年　同　准教授
２０１４年　大阪大学産業科学研究所　先進電子デバイス研究分野　教授（現在に至る）
２０１７年　大阪大学栄誉教授の称号付与
２０１８年　大阪大学　総長補佐（栄誉教授）（現在に至る）

所　属　学　会　　・（公益社団法人）応用物理学会
・（一般社団法人）エレクトロニクス実装学会
・（公益社団法人）日本工学アカデミー
・American Chemical Society (ACS)
・Materials Research Society (MRS)
・Society for Information Display (SID)